

タイトル：『汐製菓会社の新作㊦バウムクーヘン』

【シーン：汐製菓会社・会議室 | 斬新な提案】

（汐製菓社長の汐と秘書の塩田が会議室で新作の打ち合わせをしている。会議室には資料が散乱し、ホワイトボードには「新提案」が書かれている。）

汐：（興奮しながら）「塩田くん、聞いてくれ！我が社の第㊦弾、新作バウムクーヘン、決まりだ！“ダーズリン味”に挑戦するぞ！」

塩田：（驚いた表情で）「え、社長、本当にその味ですか？紅茶の味がバウムクーヘンに合うのかどうか…」

（塩田は真面目な性格だが、実は大の甘党。自分の好みを押し付けたくはないが、心の中ではちゅっとなぐなぐしている。）

汐：「平凡じゃダメだよ！普通のバウムじや目立たない。甘みと苦みが絡み合った、大人の味に仕上げるんだ！」

塩田：「でも、ターゲットは誰にするんですか？大人を狙うなら、もう少し控えめな味の方が…」

（汐がサッとホワイトボードに駆け寄り、魅力的なグラフを描き始める）

汐：「大人でしょ！それに、“面白きことも無き世を面白く”が我がモットーだ。万人受けなんて不要だ！」

（塩田は内心で「本当にそんなことできる

の？」と唸り出す）

塩田：「（少し心配そうに）でも、社長、失敗したらどうなるんですか？」

汐：「失敗したら、また新しいアイデアを考えればいい！それが冒険だ！」

（塩田は一瞬ため息をつくが、汐の熱意に触発され、彼の背中を押すことに決める）

塩田：「わかりました、社長。全力でサポートします！」

【シーン2：試作品開発室 - 苦戦する 研究員たち】

（汐の指示を受けた研究員たちが試作品の開発に取り組む。研究室内は茶葉やバウムクーヘンの材料が散らばっている。）

研究員A：「よし、ダージリンを生地に混ぜて…完成だ！さあ、味見してみよう。」

（一口食べた瞬間、苦い顔をする）

研究員A：「（苦味を感じて）うわっ、これは
…苦すぎるか？」

研究員B：「（味見しながら）まさに、紅茶の
味が全面に出てるな…でも、バウムクーヘンと
してはどうなんだ？」

（他の研究員たちも一口ずつ試食するが、み
んな微妙な顔をする）

研究員C：「（顎を撫でながら）これは確かに
新しい…でも、どう調整すればいいのか？」

（塩田が心配そうに試食に加わり、思わず首
を振る）

塩田：「（苦い顔をしながら）もう少し甘さが
欲しいですね…。これじゃ、苦い茶葉の味が強
すぎて…」

(研究員たちはお互いに目を合わせながらきえ込む)

研究員 A : 「 (笑いながら) でも、社長はこれを『革命的』って言ってたし…! 」

(一同、苦笑いしつつも開発を続ける)

【シーン③：国内試食会 – ドタバタ試食会】

(ついに汐製菓の新作発表会が国内で開催される。メディアや一般客が多数集まり、期待が高まる。)

汐 : 「 皆さま！これが我が汐製菓の最新作、
“ダージリン味のバウムクーヘン”です！ぜひ
賞味ください! 」

(客が興味津々で試食し、微妙な反応が次々と返ってくる。)

客A(中年女性)：「(味見して)うーん…これは健康食品みたいな味ですね？紅茶の香りがするけど、甘さが足りないわ。」

客B(若い男性)：「最初の一口は『苦っ！』って思ったけど、噛むほどにクセになるかも？ちよつと大人の味って感じで。」

(彼はスママホを取り出し、インスタグラムに投稿し始める。)

客C(サラリーマン)：「俺はこういう渋めの味、けっこう好きかも。でも、会社で配ったらちよつとウケ狙いに見られるかな…」

(次々と試食が進み、バラエティ豊かな感想が飛び交う。)

汐：「ほら見る、塩田くん！日本人もこの大人の味に引き寄せられてるじゃないか！」

塩田：「（内心）これはどう考えてもクセが強すぎるのでは…でも社長は本当に楽しそうだし…まあいいか。」

（その時、試食会の後ろでバタバタと騒がしい音がする。何かが崩れたようだ。）

スタッフ：「ああ！新しいダージリンバウムが…！」

（汐が振り向くと、スタッフが試作品を運ぶ途中で転んでしまった。）

汐：「（大声で）大丈夫か！みんなの反応がどうなるか見てみよう！」

（会場は一瞬静まり返り、次の瞬間、爆笑が起る。）

【シーン4：フランスでの試食会ーパリの事件】

() フランス・パリでの試食会。汐と塩田が現地バイヤーたちにダーズリッ・バウムを提供し、反応を観察する。()

汐：「ボンジュール！日本の伝統に現代のエッセンスを加えた新しいバウムクーヘンです！ぜひお試しを！」

() フランス人バイヤーが慎重に試食し、不思議そうな表情を浮かべる。()

フランス人バイヤーA：「これは…今まで食べたどのバウムクーヘンとも違う。苦みと甘みがまるでシャンソンのように流れていく…」

() 他のバイヤーも口ずさみ試食し、反応はそれぞれ。()

フランス人バイヤーB：「まさか…バウムクーヘンが紅茶の味になるなんて、奇抜だわ。でもこれは…うーん、ちょっとクセが強すぎるかも。」

フランス人バイヤーの：「フランスのお茶文化にはない味わいだ。でも面白い！」

（その時、フランス人バイヤーが興奮し、拍手をしながら叫ぶ。）

フランス人バイヤーD：「これ、ぜひパリのカフェで提供したい！スタイルがオシャレだわ！」

（汐と塩田は驚いて顔を見合わせる。）

汐：「（心の中で）これがダージリンの力か…
さあ、次はアメリカだ！」

【シーン5：アメリカでの試食会 - 甘党 アメリカンの反応】

（ニューヨークでの試食会。大盛況の会場で、汐が自信満々にアメリカ人にダージリン・バウムを提供。）
汐：「（大声で）皆さん！これが我が社のダージリン・バウムクーヘンです！新感覚の味をお楽しみください！」

(アメリカの参加者たちが試食するが、最初は可憐い表情を見せる。)

アメリカ人男性 A:「一口食べて(これは…
思ったよりも苦いな。」

アメリカ人女性 B:「(苦笑しながら)うー
ん、これがバウムクーヘンなのか？もっと甘いと
思ってた！」

(汐が彼らの反応を見て、必死に説明す
る。)

汐:「これはダーズリン紅茶の風味を生かし
た大人のバウムクーヘンです。普通のバウムと
は違うんです！」

(アメリカ人たちが互いに意見を言い合い始
める。)

アメリカ人男性 C:「(ニヤリとして)でも、酒
のつまみとしてはいいかもしれない！」

(参加者たちが試食を続ける中、汐は大はし
ちか。
)

汐：「アメリカンな意見も面白い！次はデザ
ートとしてスイートな味も考えよう！」

(参加者たちは爆笑し、アメリカンな反応を
続ける。)

アメリカ人女性ロ：「これ、ビールと一緒に食
べるといいかも！新しいフードペアリングだ
わ！」

(会場が一気に盛り上がり、汐は興奮気味
に次の国に行く準備を始める。)

汐：「さあ、次は韓国だ！どんな反応が返って
くるかな！」

【シーンの：韓国の爆発的ヒット - SNS
でバズる】

(韓国・ソウルの試食会が開催される。韓国の参加者たちが集まっている。汐が新作バウムクーヘンを紹介。)

汐：「(熱心に)皆さん、ダーズリン・バウムを試してみてください！新感覚のスイーツです！」

(韓国の客が一口食べて、最初は苦い顔をするが、次第に表情が変わっていく。)

韓国人女性 A：「(驚きながら)これ、意外といける！カフェに合いそう！」

韓国人男性 B：「(スマホを取り出して)これ、インスタにアップしよう！オシャレで映えるね！」

(次々とSNSでの反応が広がり、試食会は盛況となる。)

塩田：「(驚きつつ)まさか韓国で人気になるとは……！」

(汐は喜びを隠しきれず、心躍る。)

汐：「これだ！挑戦は楽しい！世界を相手にしよう！」

(韓国の参加者たちがSNSに投稿し始め、試食会はさらに盛り上がる。)

韓国女性：「このバウム、ほんと新しい味だわ！みんなに知らせないと！」

【シーン】：大成功と次なる挑戦 - 汐の野望【

(国内外でそれぞれのバージョンが大ヒットし、汐製菓は大成功を収める。社内で祝賀会が開かれ、社員たちが盛り上がっている。)

汐：「皆！おかげさまでダーズリン・バウムクーヘンが大ヒットした！感謝の気持ちを込めて、次の新作を考えよう！」

(社員たちは拍手し、喜びの声を上げる。)

塩田：「(少し疲れながら)社長、もう少し休憩を…」

汐：「(ニヤリとして)ダメだ！次はわさび味に挑戦するぞ！日本の味を世界に広めよう！」

(社員たちは戸惑いつつも、汐の情熱に引き込まれていく。)

社員A：「え、わさび！？それは大丈夫なのか…？」

社員B：「(笑いながら)社長の発想はいつも突飛だけど、ついていくしかない！」

(賑やかな祝賀会が続き、会場は笑いと期待に満ち溢れる。)

【エンディングー 笑いと友情の幕引き】

（舞台の後ろで、汐と塩田が笑顔で舞台に立ち、観客に向かって挨拶する。）

汐：「皆さん、これからも汐製菓をよろしくお願います！新作を楽しみに待っていてくださいー！」

塩田：「（少し恥ずかしがりながら）社長についていきますので、どうか変な企画は…（微笑む）」

（観客が拍手し、笑いが広がり、終幕。）

終わり